

第1回上北地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 上北地区統合校における目指す人材像について

【各委員からの意見】

- 意見なし

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 第1期実施計画で掲げる「社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人材」「地域資源の活用に創造的に取り組み、地域の発展に貢献する人材」「農産物の生産とその生産を支える環境、加工、流通、販売等について学び、地域産業を支える人材」の3点を基本としてもらいたい。

2 上北地区統合校の学校像について

【各委員からの意見】

- 統合される3校でそれぞれの伝統や良さがある。新しい学校でも良いところを引き継いでもらいたい。
- 上北地区統合校の普通科は2学級としているが、文部科学大臣が普通科の在り方について中央教育審議会に諮問したという動きがある中で、計画どおりいくのか確認したい。
- 十和田市は、観光と農業を基幹産業としていることから観光科に強い思い入れがある。普通科の1コースとして、希望に応じて観光の学びを選択するといった曖昧なものではなく、きちんと打ち出してほしい。観光科が地域にどれだけ貢献してきたかを考慮していただきたい。
- 最近では子どもの数が減ってきており、農業の後継者も不足している。そのような中、地域に残り自分たちの郷土として生きがいを感じるような教育を進めてほしい。
例えば、農業科の広大な農地と設備を活用し、自然を教材としながら、子どもたちの成長に役立てられないか。他の普通科では真似できない統合校特有の普通科にし、地域を自分たちで愛していく意気込みを持てるような学校像であってほしい。
- 観光や農業の新しい時代を見据えるため、チャレンジ精神、コミュニケーション力、郷土愛が求められると思う。今後は、ますます複雑な時代になるので、子どもたちの能力を最大限引き出せるような学校であってほしい。
- 統合校の施設設備については安全安心ももちろんだが、3校が統合され新しくなるので、各校の良さを施設的に生かせる学校にしてほしい。
- かつての農業は作るのが主であったが、今は売ることが作ることと同じく大事であるため、新しく学科を増やせないとしても観光の軸が出てくるような配慮ができないか。

（意見等記入票における意見）

- 農業科と普通科はカリキュラム等が異なることから、同じ学年という集団意識を高めるため、農業科と普通科の生徒が同じ学年にも関わらず、教室の配置が離れることのないようにしていただきたい。
- 現在、女子寮は希望しても入寮できない生徒もいる状況にあり、普通科の生徒にも農業実習等を体験させることで大きく成長することが期待できることから、寮の新設（改修）などにより、収容人数を増やし、農業科・普通科問わず、希望する生徒は入寮できる環境を作っていただきたい。

- これまで六戸高校で実践してきた地域とのタイアップによる探究型学習のノウハウを継承することで、統合校において三本木農業高校の学習環境を活用した探究型学習の更なる充実を図ることができると考えられる。加えて、普通科と農業科の併置により、教科横断型の学習が容易になるとともに、教育再生実行会議の提言に示されている普通科の特色化にも応えられるものになると考えられる。

一方で、統合校が新たな学校に変わったというイメージを打ち出すには、学習内容だけでなく、施設・設備の面で一層の環境整備が必要である。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 開設準備委員会における様々な意見を踏まえて、県教育委員会で各校の特色ある教育活動の発展やそれをかなえる施設整備などの検討を進めてもらいたい。

3 校名案の決定方法について

【各委員からの意見】

- B案で良いと思うが、あえて校名を複数挙げる必要はないのではないか。むしろ話し合いで1案に絞るよう努力する方法はどうか。
 - 全く新しい校名にするのか、あるいは統合される高校の校名を引き継ぐのか、校名案の方針をある程度決定してから、校名案の決定方法を選んでどうか。
校名案の方向性を決めてからという流れからするとB案かもしれない。B案にするとしても、具体の校名案を協議する前に一度校名案の方向性について議論したい。
 - 卒業生だけでなく地元中学生や地域の人たちも意見を持っていると思うので、広く公募すべき（A案）だと思う。そのプロセスとして、校名案の方向性の意見を十分出し合ってから決めるべきではないか。誰もが納得するような校名と中身にすべきではないか。
 - 個人としては、愛される学校にするため、広く公募すること（A案）が理想であるが、各委員も各学校を愛しており、地域の未来に夢を持って会議に臨んでいる。したがって、B案ということにしつつも、時間をかけて話し合っ決めていくのが良い。教育理念や学校の在り様等についても話し合いたいところである。
 - B案に賛成である。外郭団体である後援会等の意見も聞きながら意見を述べることにしたい。
 - 校名と中身が合致していなければいけない。そういう意味ではカリキュラムまである程度見込んで議論しながら校名を検討すべきではないか。カリキュラムを決定するところまでの議論にならないかもしれないため、ある意味では中途半端になるかもしれないが、総合的に検討していけば良いのではないかと。意見としてはB案に近い。
 - 決定方法としては、B案がふさわしいのではないかと。
 - 地域や関係者の思いはあると思うが、県民から意見を聞くこと（A案）が一番良い。
- ※A案は事前公募方式、B案は事後意見照会方式を示す。

（意見等記入票における意見）

- 校名は多くの方々が関心を寄せており、決定した際には明確な根拠を示さなければならない。第2回委員会では、先に「引き継ぐべき教育活動」の中で「統合校の普通科の教育内容と特色化」について県教育委員会の構想を伺ってから、校名案について意見交換できれば良い。また、それにより「統合校の普通科」のイメージがある程度できることになり、委員は「普通科と農業科の連携」について意見を述べるができると思う。そのた

め、進行については、「引き継ぐべき教育活動」、「普通科と農業科の連携」「校名案」の順でお願いしたい。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 校名案の決定方法としては、B案（事後意見照会方式）とするが、第2回委員会では具体の校名案候補ではなく、まずは「新しい校名にするのか」、「統合対象校の校名を引き継ぐのか」という視点で校名案の方向性について協議する（具体の校名案候補を委員から提示しても構わない）。